

滋賀県流域治水検討委員会 第1回住民会議

議 事 要 旨

日 時：平成20年3月9日(日) 13:00～17:00

会 場：「コラボしが21」大会議室

出席者：48名

委 員 石津文雄、大橋正光、北井香、柴田善秀、杉本良作、中井正子、中村誠伺、
(敬称略) 成宮純一、齒黒恵子、松尾則長

アドバイザー 多々納裕一(京都大学防災研究所教授)

オブザーバー 市町担当者、県関係部局担当者

事 務 局 嘉田由紀子(知事)、流域治水政策室、河港課

議 事

1. 開 会
2. 知事あいさつ
3. 委員自己紹介
4. 議 事
 - (1)委員会の進め方について
 - (2)治水政策の現状と課題について
 - (3)これからの治水政策の方向性について
5. 一般傍聴者からのご意見
6. 閉 会



議事要旨

1. 開 会

事務局より開会宣言、資料確認が行われました。

2. 知事あいさつ

はじめに、嘉田由紀子滋賀県知事より開催のあいさつがありました。

3. 委員自己紹介

各委員より、自己紹介、住民会議への抱負などを発表していただきました。



4. 議 事

(1) 委員会の進め方について

事務局より、住民会議の設置要綱・運営要領および会議の位置づけ、今後のスケジュール等について説明がありました。

(2) 治水政策の現状と課題について

議事進行が多々納アドバイザーに代わり、事務局より資料 2-1 を用いて、治水政策の現状と課題についての説明が行われました。



(3) これからの治水政策の方向性について

資料説明に対する感想にあわせて、自助・共助として自らできること、公助に期待することについて、事前に提出された意見書をもとに、発言していただきました。

【松尾委員】

- ・ 治水に関しては完璧はないというのは、自然の摂理と思う。
- ・ (犬上川を例に)これからは住民が納得して、地域との協働がないと、河川改修を行うことはできないと思う。
- ・ 芹川ダムは、一番の問題は予算がないため、事業が前に進んでいない。40年経ってできていないものは、あと40年あってもできない可能性もある。住民一人一人が「是非欲しい」という思いがないと、事業はなかなか前に進まない。
- ・ 水路が暗渠になってしまっていて、大雨であふれる。町中の水路や側溝をもう一度しっかり見直していただきたい。

【齒黒委員】

- ・ 自警消防団や女性自警団などがあるが、若い人は働きに出ているのでいない。元気なお年寄りに地域の点検をお願いしている。
- ・ 自分の住んでいる字(あざ)では、見回りなど共助の精神が守られている。
- ・ 私の子どもだった頃は水を大切にしてきたが、現在は大量生産と使い捨ての時代となっている。
- ・ 子どもとその保護者、お爺さん・お婆さんで水路調査「みぞっこ探検」等を17年間続けている。これらの活動の成果は、川の生き物の様子や水質がわかるだけでなく、川の構造や変化が把握できること。



【成宮委員】

- ・ 整備のお金がないなら、それなりの手法を考える必要がある。地道な調査が重要。お金がないというと、地域は「しょうがない」ということになる。
- ・ (愛知川について)改修が進まなくても、現状の維持管理をしてほしい。山の維持管理には税制度(緑化税)があるが、川の維持管理税についても検討してはどうか。
- ・ 洪水ハザードマップでは、どこが決壊したらそうなるのかが地域の住民の皆さんに周知されて

いない。浸水被害にあった人にマップを見せたら、「もう何ともないのではないか」と言われる。自分のリスクとして、逃げる体制を作ってもらおうようお願いした。

- ・ 水位を確認できるよう、ITV を使って、要所要所の現在の河川の状況を流してほしい。
- ・ 「ワーカーズ・コレクティブ」的な組織に情報を提供するようにしてはどうか。
- ・ 霞堤は、河床低下が進んでいるため、現在は役に立たない。昔の知恵（暗黙知）を配慮した河川治水計画に万全を期してもらいたい。

【中村委員】

- ・ いろいろな書籍なども見て、これからも勉強していきたい。
- ・ 書いた意見書には、自分の意見をどうやって実現するのかという点が不足している。
- ・ 過去に参加した防災訓練の経験から、トップがやる気にならないと住民は参加しないことがいえる。
- ・ 団地の方は、鎌も持たずに清掃に参加される。皆、道具を持っていないので、防災倉庫をきっちと作ることが必要。
- ・ 歴史に学び、先人の知恵を継承していくことが重要である。
- ・ 個人ができることとして、逃げ道を考えておく、土嚢を用意しておくことなどが挙げられる。

【中井委員】

- ・ 住んでいても「川」を非常に実感しない。生き生きとした川がいい。川の文化を大切にしていきたい。
- ・ 川に対する知識不足が問題。
- ・ ハザードマップについて、今は住宅地でも、水が浸っていたところだとわかると地価が下がるので、住宅をやっている企業がうまく活用できるかという問題がある。
- ・ 名簿の問題では、個人情報保護法には出さない弊害もあるが、逆に共謀罪がつくられコミュニティで情報がほかの目的で使われることがこわい。
- ・ 車の問題も重要。水害で流されると被害がでる。
- ・ 今までの体験に現在の生き方を加味したノウハウづくりが必要だと思う。

【杉本委員】

- ・ 説明資料(資料 2-1)にある河川整備の進捗状況を見て、これは大変だと思った。
- ・ (滋賀県は)若い人の増加など全国のパターンにあわないので、その対策を考えないといけない。
- ・ 砂防ボランティアで新潟県山古志村の周辺地域に行ったが、人材が少なく、人材育成の必要性を実感した。
- ・ 防災エキスパートとして豊岡へ行った経験から、ある程度知識があれば災害は防げるので、私たちが応援することが大切。
- ・ トренд方式の発想を変えていく必要がある(若い人の増加、情報ツールの増加)。

【柴田委員】

- ・ 多くの情報を行政は提供しているが、住民が情報をくみ取って利用するところまで行政が考え

ているのかは疑問に思っている。

- ・ タウンウォッチングを行った経験があるが、個人個人が持っている情報を集約することで、みんなが共有することができる。
- ・ 昔危険だった場所に新興住宅が建っている。そこに住んでいる人間はそのことを知らない。
- ・ 例えば、市町村合併で地名がいろいろ無くなったが、地名の裏には多くの情報が隠されている。歴史から学ぶという姿勢も大切ではないかと思う。
- ・ 防災の中に、復興、復旧の視点も含める必要があるのでは。災害前後の情報整理に時空間情報システムなども有効である。



【北井委員】

- ・ 野洲市小南の事例では、左義長の日に合わせて避難訓練や炊き出し訓練を行っており、自然な流れで地域の防災訓練が行われている。このように、地域の行事に合わせて防災の取り込んでいくと参加しやすいのでは。
- ・ 説明資料にある河川整備の進捗状況図などは、住民に危機意識を持っていただくための啓発情報として使えると思う。

【大橋委員】

- ・ 旧の自治体にはそれなりの備えができていた。
- ・ 自分の地元では、水害が起こりそうになると鐘を鳴らして知らせていた。地域で決めた一定の水位に達すると、鐘を鳴らして町内に知らせ、さらに警戒水位になると鐘を連打した。
- ・ 新興住宅の人にどのように伝えていくかが課題。
- ・ ハザードマップも配布するだけではだめ。住民の意見が反映されていないこともある。
- ・ 情報の流し方も問題。この会議での議論で終わるものではなく、それをどう地域で活かしていくのが大切。その後のフォローが必要である。



【石津委員】

- ・ 自分の地域は、生活用水は全て地下水を利用している。かばた文化を次の世代に伝承しようとしている。
- ・ しょうずの郷委員会では竹藪の再生なども展開している。
- ・ 安曇川では、河床が高くなり天井川状態になっている。川底を掘り下げ、出た砂利を建設資材として利用し、工事代を安くすることも考えてみては。

5. 一般傍聴者からのご意見

一般傍聴の方から、ご意見をいただきました。主なご意見は以下の通りです（敬称略）。

【男性（彦根市在住）】

- ・災害ボランティアとして、様々な災害現場を体験してきた。
- ・オブザーバーの方々の紹介をお願いしたい。
各オブザーバーの自己紹介
- ・オブザーバーの方々は、水害だけでなく地震など様々な災害に関わっていると思うが、この住民会議も様々な災害を加味した上で話し合ってもらいたい。

【男性（大津市在住）】

- ・ハード面の課題と住民会議とがうまくラップしないといけないと思う。この住民会議の中で、流域毎にこういったハード的な問題があるのかを明確に提示していただけるのか。
（河港課長）今後の整備の進捗や浸水が想定される区域などは、整理次第できるだけ出していきたくて考えている。ただし、この住民会議では、個別の河川ではなく、滋賀県の大きな方向性を議論したいと考えている。流域治水の中で、地域住民の方々ができることを考えてほしい。
（多々納アドバイザー）お示しできる情報はお示しすることだと思うが、県の思いとしては、個別の流域の問題を考えるのではなく、むしろ個別の流域から出てくる知恵をもって全体の議論に繋げていってほしいということだと思う。

【男性（京都市在住）】

- ・淀川流域委員会でも住民が参加して、様々な議論がされている。滋賀県でも、嘉田知事の方針などがHPに公開されている。委員の方々には、滋賀県全体のことを考えるにあたっては、これらの情報に関心をもっといただきたい。県や市町も情報を出すべき。

【多々納アドバイザーによる総括】

県の河川整備の状況や施設の整備規模を超える洪水の発生などを踏まえた上で、地域はどう対応していくべきか、という議論が十分できていない。

次回以降の委員会では、いろいろ出していただいた地域防災の知恵をどうまとめていくか、地域としてどう対応していくか、といったことを、他の委員会のいろいろな意見や地域の歴史等も含めながら、提言としてまとめていっていただきたいと考えている。



6. 閉 会

滋賀県河港課長より、閉会のあいさつがありました。あいさつの要旨は以下の通りです。

【閉会のあいさつ要旨】

- ・非常に幅広い意見を出していただいたので、今後はテーマを絞りながら議論をしていきたい。
- ・この会議のテーマは二つあり、ひとつは行政に求められていることをしっかり聞くということ、もうひとつは地域住民の方々が何をできるのか議論していただき、滋賀県民への情報発信を行っていただきたいということ。このことにより滋賀県全体の防災力が上げられずばらしいことだと思う。
- ・具体的には、情報とハードの2つの切り口で整理していく。また時間軸という観点で人命を失わないための初動体制（準備、対処）について話し合っていただきたい。さらに啓蒙育成についても知恵を貸していただきたい。



議事概要は主な議事の内容を迅速にお知らせするために庶務（滋賀県流域治水政策室）で取りまとめているものです。

詳細な議事内容については、議事録を会議後1月程度で公表する予定です。